

第11回 盛岡地区かわまちづくり懇談会 資料



平成28年12月19日
岩手河川国道事務所

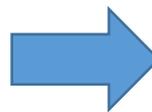
1. 平成27・28年度の事業内容

中津川関連

1. 浅岸橋上流中州撤去 (H27)



浅岸橋から上流を望む (施工前)

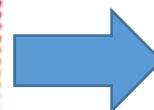


浅岸橋から上流を望む (施工後)

2. 中津川橋周辺の伐採・整地 (H27)



中津川橋から上流を望む (施工前)



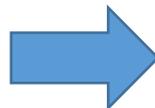
中津川橋から上流を望む (施工後)

1. 平成27・28年度の事業内容

3. 上の橋上流の伐採・整地 (H28)



上の橋から上流を望む (施工前)

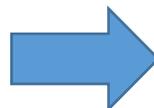


上の橋から上流を望む (施工前)

4. 下の橋周辺の伐採・整地 (H27)



下の橋から上流を望む(施工前)



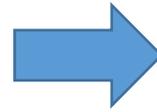
下の橋から上流を望む(施工後)

1. 平成27・28年度の事業内容

5. 山賀橋左岸側アンダーパス整備 (H28)



上流から山賀橋を望む (施工前)



上流から山賀橋を望む (施工後)

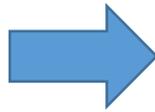
1. 平成27・28年度の事業内容

北上川関連

6. 明治橋下流左岸 石積護岸修景 (H27/H28)



施工前



明治橋から下流へ約280m施工

7. 明治橋下流左岸 階段整備 (H27)



高水敷へ下りる階段



堤内地側の階段(特殊堤を乗り越える)



整備箇所の位置

1. 平成27・28年度の実施内容

8. 開運橋上流右岸 木伏緑地地先整備 (H27/H28)

特殊堤と木伏緑地との間が低く、緑地と連続した空間ではなかった



施工前

緑地と河川空間を一体化



施工後

平成28年8月に盛岡駅前東口振興会の主催による「木伏屋台祭」が整備された空間を利用し実施された

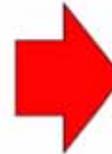


1. 平成27・28年度の実施内容

かわまちづくり事業の進捗状況について

資料-3を参照

| 平成 22 年度における「盛岡かわまちづくり計画」の施策 | |
|------------------------------------|--|
| 施策方針（案） | 施策の方向・主な整備施設イメージ |
| 1. ひと・かわ・まちの連携の再構築 | |
| 1) かわでの市民活動の促進 | ・WS、オープンハウス等での議論の場、意見収集の場の提供 |
| 2) かわの魅力伝える情報発信 | ・市民団体活動の場・情報発信基地としての場の提供 |
| 3) 多様な参画の仕組みづくり | ・情報発信地・交流拠点としてのPR・活動支援 ・子育てに川を活かす仕組みづくり |
| 4) イベントによる利用機会提供 | ・現状の各種イベントの推進・情報発信による活性化 |
| 2. かわとまちの自然環境の保全・活用 | |
| 5) 自然環境保全の推進 | ・自然環境の情報共有と管理体制の構築 |
| 6) かわを学べる水辺空間づくり | ・浅岸橋付近のサケ産卵場周辺の整備 ・学べる水辺空間の創出 |
| 7) 河道内植生の適性な管理 | ・河道内樹林の管理 |
| 8) 河道内の植栽・管理体制づくり | ・河原植生の管理 ・植栽方法等のルール・協定づくり |
| 3. かわまちの歴史・景観の保全・活用 | |
| 9) まちの歴史を活かした水辺づくり | ・先人たちの歴史を伝える場づくり |
| 10) 橋詰・橋上の視点場づくり | ・「橋」を活かした散策ルートづくり（たまり場・休憩施設等） |
| 11) 街並みと調和した護岸の維持・補修 | ・コンクリート護岸の補修・修景整備（合流点～明治橋下流） |
| 12) 景観保全・形成の実施体制づくり | ・川沿いの古い街並みの保全と景観形成方針 ・河川・水辺空間の景観づくり方針 |
| 4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出 | |
| 13) 水辺の遊歩道の整備 | ・フットパスの延伸整備（水辺の遊歩道整備） |
| 14) まちと川を結ぶアクセス整備 | ・川へのアクセス整備 ・バリアフリー坂路の整備・改良 ・街並み環境整備との連携による動線確保（川へのアクセス） |
| 15) 河川利用拠点の整備 （例・盛岡城跡公園との一体的整備） | ・歴史文化施設との一体的水辺空間整備 ・盛岡城跡公園との一体的休憩・オープンカフェ等の整備 ・ビクトリアロードの修景整備 |
| 16) サインシステムの設置 | ・統一サインの整備（河道内・まちなか観光ルート） |
| 17) 川とまちの連携空間の形成 | ・沿川未利用地等を活用した水辺に顔を向けた水辺空間整備 |



| 平成 28 年度までの進捗状況など |
|--|
| オープンハウス（平成 22～26 年）の開催 勉強会（7 回）等を実施 新規イベントとして、平成 27 年に納涼棧敷が実施 木伏緑地の活用（商店会等におけるイベントの開催） |
| 下橋中学校の水生物調査 カジカの産卵床の整備 「サケものしり帳（仮称）」の作成のための WS 開催 |
| 中州の整正・樹木撤去等の実施 |
| もりおか歴史文化館、もりおか町屋物語館の整備 ビクトリアロードの修景整備など 石積修景の実施 盛岡市景観計画等と連携 |
| 中津川・北上川（左岸）に概ね設置 （一部堤内地を利用するが周遊が可能） 水辺の遊歩道整備に合わせ対応 遊歩道の主要部分での対応 明治橋下流における資料館前の階段整備等 もりおか歴史文化館地先の活用 木伏緑地地先の活用 材木町における解説サインの設置 中津川の橋梁の下部に橋説明板を設置 階段、坂路などのアクセス整備 木伏緑地と河川との一体化整備 |

2. かわまちづくり事業の今後について

① 「かわまちづくり」計画の変更について

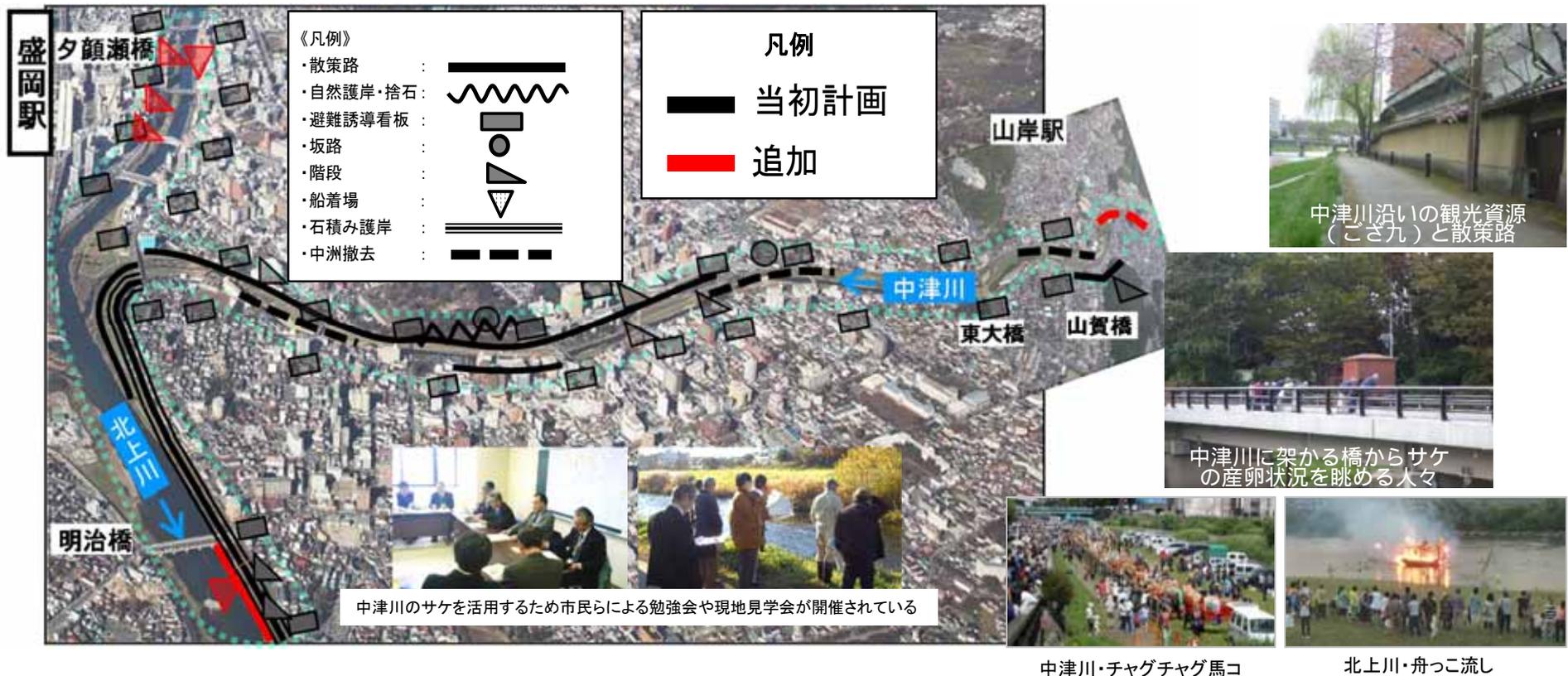
詳細は、資料-2を参照

主な変更内容

| | 現状 | 変更 |
|---------------|--------------------------|---|
| 整備期間 | 平成29年度まで | 平成32年度まで (モニタリング等を含めた 事業期間は平成37年) |
| 整備範囲 (中津川) | 北上川合流点から 中津川橋まで | 北上川合流点から 水道橋まで |
| 整備範囲 (北上川) | 明治橋(旧新山河岸付近)から 夕顔瀬橋まで | 南大橋から 夕顔瀬橋まで |
| ソフト施策 実施範囲 | 中津川 中の橋下流地区 | 中津川 中の橋下流地区 北上川 開運橋上流地区 |

2. かわまちづくり事業の今後について

- 盛岡市街地を流れる北上川、中津川周辺には数多くの観光資源が存在し、年間を通じてイベントが開催されるなど、地域では河川を観光資源として活用する気運が高まっており、河川空間を活用した「にぎわいの場の創出」、「観光振興の推進」を目指すものである。
- 官民協働による「かわまちづくり勉強会」では、中津川を遡上するサケを観光資源とし「かわまちづくり」に活用することなどが提案された。サケに関する情報を充実・発信していくこと、民間による河川空間の活用を図ること等を展開していくことを目標として、河川を軸とした動線強化のため事業延長を行う。



2. かわまちづくり事業の今後について

② 次年度事業について

北上川・開運橋上流右岸にある「木伏緑地」階段整備

昨年度、木伏緑地と河川空間との一体化を進めたことを踏まえ、高水敷に下りられる階段を設置することとした。



現状

緑地との一体化を図ったため、既存の階段が利用できなくなった



整備イメージ

河川敷に下りられるように階段を設置

2. かわまちづくり事業の今後について

明治橋下流左岸における散策路の整備

平成27.28年度に整備した散策路を、さらに南大橋にむけて整備



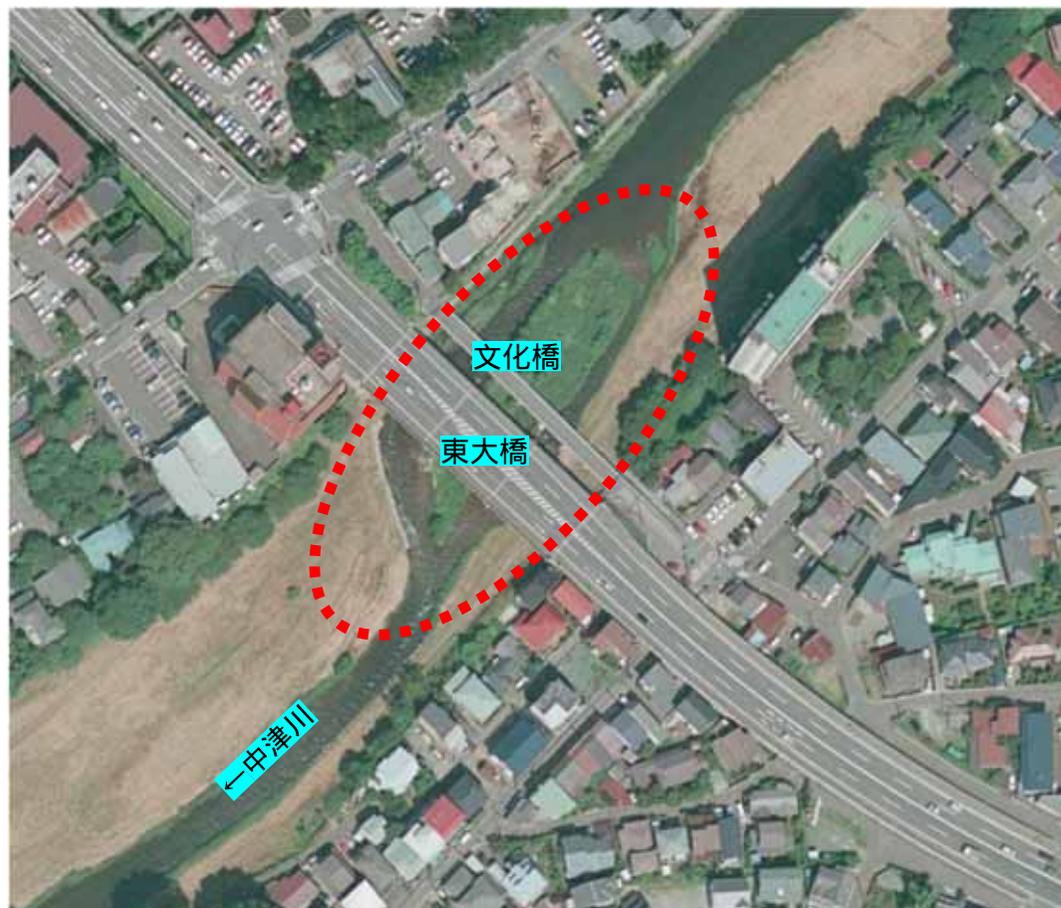
整備された散策路



2. かわまちづくり事業の今後について

東大橋・文化橋周辺における中州撤去

河道内の適切な管理として中津川に架かる東大橋・文化橋周辺の中州撤去を行う予定としている。



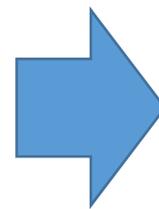
3. サイン計画について

前回(H27.3.17)の懇談会で示した大型のサインを、試験的に設置するため関係機関と調整を行った結果、通行障害や景観阻害の恐れがあるため設置場所が限られてくることや調整に時間がかかるなどが判明。

そこで、短期的に対応できる小型のサインを河川区域に設置することとしたい。



大型サインの例



小型サインの例

3. サイン計画について

サインの設置方針

【設置について】

◇小型サインを河川敷地内に設置

→河道内に設置することや景観に配慮し一本柱型を想定。(デザイン・大きさ・配置は今後検討)

◇河川敷地へのアクセス周辺に設置

→階段やスロープの脇に設置することを基本とし、アクセス地点が遠距離にある場合は、中間部分にも設置。

【内容について】

◇サイン内容は、誘導表示を基本。

→現在位置の把握と誘導情報
(出水時に速やかに移動できることへの配慮)

◇多言語化対応として英文を表示。

→複数言語ではデザイン的に煩雑となるため、情報を絞り込んで提供する。



サイン設置の一例(イメージ)



記載情報の一例

3. サイン計画について

参考情報

河川周辺における案内サインの設置（盛岡市、個人）



平成27年に盛岡市が材木町に設置した案内サイン(北上川の石積の説明)



市民の方がサケの生態に関する情報を提供するとして案内サインを盛岡市に寄付(平成28年11月)

4. 勉強会の動き

盛岡かわまちづくり勉強会とは

- ・盛岡地区かわまちづくり勉強会は、かわまちづくりを進めるにあたり、市民と行政との協働、かわ・まち・ひとの連携について恒常的に対話する場として設けられた。
- ・市民と行政との連携方策について、実践することを前提に議論を行うため、中津川を中心に活動している市民団体や沿川の町内会、各種振興会等がメンバーとなり構成している。
- ・平成23年度に第1回を開催し、これまで7回の勉強会を開催している。



勉強会では、テーマを絞り、実践できる方策について意見を出し合い検討を進めている。



勉強会では、実際にフィールドに出て、現場を見て、具体化を図る糸口を探る。

4. 勉強会の動き

サケものしり帳(仮称)ワークショップ

平成27年度の動き

- ・平成27年度には「かわまちづくり勉強会」を2回開催。
- ・その中で、メンバーから「サケを資源としたまちづくり」を考えていくことが提案された。
- ・そこで、来訪者や住民らにサケに関する情報提供する「サケものしり帳(仮称)」をワークショップ形式で検討することが提案された。

本年度の動き

- ・本年度(平成28年11月24日)に25名の方々に
お集まりいただき「サケものしり帳(仮称)」に
関するワークショップを開催し、以下の点を議論。

◇読者層

→小学生高学年(4年生)が理解できる内容

◇内容(構成項目)

→サケの生活史、中津川での自然産卵、食物連鎖など

◇体裁(サイズとページ数)

→「A3版の両面タイプ」「冊子タイプ」(今後検討)

- ・本年度中にあと2回開催し、配付可能な状況として完成させていく予定。

